



かゆみが継続して困っています。症状があるのはおなかの辺りが中心で、数年続いています。薬のことは分からないので、お風呂でよく洗うぐらいしか手を打っていません。どのように対処すればいいのか、指導をお願いします。(75歳・女性)

老人性皮膚掻痒症

老人性皮膚掻痒症は、見た

目では明らかな発疹がないにもかかわらず、強いかゆみが続く、高齢者に多い皮膚疾患です。

主な原因は加齢に伴う皮脂や汗の分泌の低下による皮膚の乾燥です。さらに皮膚のバリアー機能の低下や神経過敏

ども誘因になります。

治療は保湿とステロイド外用剤や抗ヒスタミン薬や抗アレルギー薬の内服などが主体となります。入浴後5〜10分

以内に保湿剤(ヘパリン類似物質含有外用剤や尿素軟こう、ワセリンなど)をたっぷり塗り、明らかに湿疹化した

ありません。

できるだけ皮膚への刺激の少ないゆつたりとした肌着を選び、素材も保湿性が高く刺激の少ない木綿製がよいでしょう。電気毛布は肌を直接温

めるので症状を増悪させることが多いです。エアコンも低めの温度に設定して加湿器な

洗いすぎず、しっかりと保湿を

などが加わり、わずかな刺激(衣類によるしめつけや摩擦、温度変化など)でもかゆみを強く感じてしまうようになります。特に空気が乾燥する秋

から冬に増悪しやすく、体が温まる入浴後や布団に入っている時に特にかゆみが強くなり、暖房による空気の乾燥な

ようなひどい所にはステロイド外用剤を併用します。

日常生活ではぬるめの入浴を心がけ、せっけんの使用量や頻度を控えナイロンタオルなどで強くこすらないようにします。アルコールやたばこ

どで乾燥し過ぎないように注意をしましょう。

放置して繰り返しかきむしっていると、湿疹が併発し、さらにかゆみが悪化して悪循環に陥ることも少なくありません。また、まれに糖尿病、腎障害、肝障害、甲状腺疾患、血液疾患、アトピー性皮膚炎

などの内科的疾患やアレルギー体質が隠れている場合もありますのでかゆみが長引く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

(兵庫真医師会・山田 琢 姫路市、やまだ皮膚科クリニック院長)
◇第1、3、4日曜に掲載
します。